

平成 30 年度（第 5 回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成 31 年 1 月 18 日（金） 14 時 00 分～15 時 30 分
 - 2 開催場所 青少年女性センター 大会議室
 - 3 出席委員 松尾委員、山口委員、熊谷委員、高瀬委員、柳谷委員、前川委員、宰務委員、鹿多委員、望月委員、岡本委員（10 名）
 - 4 欠席委員 田上委員、林委員、後藤委員、和田委員
 - 5 出席職員 田淵教育長、大西教育指導部長、平田教育指導部次長、山本教育指導部参事、福島社会教育・スポーツ振興課長、神吉学校教育課長、境青少年育成課副課長、加藤教育研究所長、沼田文化財調査研究センター所長、姫路少年自然の家所長、竹内中央図書館長、藤原加古川西公民館長（副代表館長）、社会教育・スポーツ振興課（大山担当課長、川上副課長、尾崎地域家庭教育係長、今井書記）
 - 6 傍聴者 0 名
 - 7 議事要旨
- 開会 14 時 00 分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（報告事項）

- 1 「市役所周辺施設等再編計画（案）」について

委員

建物が古くなっていると思うが、アスベストの調査は完了しているのか。

行政管理課副課長

市役所周辺施設について、アスベストの使用の有無について把握できている。

委員

（旧）総合保健センターに入る所属はどこを予定しているのか。また、事務所等の床面積は充足しているのか。

行政管理課副課長

現在新館 8 階に配置している教育総務部・指導部の事務所すべてに加え、青少年女性センター及び少年愛護センターに配置している青少年育成課など、市役所周辺にある教育委員会の各課を（旧）総合保健センターに移転し、文教地区である東加古川に教育委員会を集約したいと考えている。図面上、事務所スペースや貸館スペース等は充足できる計算となっているが、（旧）総合保健センターについては、設備等改修が必要な箇所があるため、来年度以降調査を行い、整備計画の作成に着手していきたいと考えている。

委員

図書館の問題はどうなっているか。

行政管理課副課長

加古川市の公共施設全般を、12 のジャンルに分けて再編計画の策定を進めており、図書館についても 1 つのジャンルとして整理を行い、平成 31 年度中に方向性を示す予定にしている。

委員

勤労会館の敷地と旧保健所跡地を一体的に活用するとあるが、どのようなことを計画されて

いるのか。

行政管理課副課長

将来的に市役所の建替が必要となった際の、仮事務所建設用地などのために確保しておく必要があると考えており、当面は維持管理をしながら活用策を検討していきたいと考えている。

委員

学校や公民館も別のジャンルで検討をしているのか。

行政管理課副課長

他の9つのジャンルのうちの1つとして考えており、平成31年度中に方向性について示していきたい。

(協議事項)

1 地域総がかりの教育の推進について

委員

学校を誰もが活躍できるフィールドにと記載されているが、今まで「開かれた学校」とずっと言われてきた。しかし、防犯上の課題も多く、門を施錠したり、警備員の配置などを行っている現状である。両者は両立していくべきだと思うが、現場では難しい。この点についてどういう考えか。

学校教育課長

開かれた学校、安心安全な学校も同時に叫ばれていることである。多くの課題については、学校だけで解決できない時代に来ているということも含めて、地域と連携しながら学校運営を進めていきたい。そういう意味で開かれた学校を捉えていきたいと思う。

委員

別府西小学校を建設する際に、講堂を建設するという話があったが、安心・安全のために無くなった。言われていることはよくわかるが、防犯面で疑問を感じる。

委員

P T Aでおやじの会の会議を行っていても、夜6時以降になると学校の中では会議はやめてくださいという話がある。学校と一緒に取り組もうとしているが、親でもこういった状況となっている。防犯面のこともあるが、どのボランティアも快く受け入れるのか、現状と比較すると違和感がある。公民館機能を学校へ統合し、学校を開くようにするのであれば、ハード面も含めて構想していかなければならない。警備員はP T Aで配置している。誰でも来ることができるようにするのであれば、教育委員会としてどうするのか考えなければならぬと思う。

委員

学校は学校、公民館は公民館、それぞれで持つフィールドがある。公民館を主体とした社会教育活動も必要だし、学校と連携しないとうまくいかないということも現実として分かっている、それぞれの良いところを伸ばしていけたらいいと思う。

委員

子どもの居場所づくりの内容について、実現したらとても素晴らしいと思う。大人が関わってどうやって子どもたちを育てていくかということが取組として書かれていると思うが、子どもが自由に遊べる場所を充実していくことについても引き続き検討いただきたい。

委員

加古川中学校がコミュニティスクールをされていると聞いたが、この文章はコミュニティスクールを進めていくということか。そのあたりについて、具体的に記載はしないのか。

学校教育課長

コミュニティスクールについても、地域と一体となって学校をつくっていくという点で、記載していることと大きな違いはない。コミュニティスクールの設置は努力義務となっており、本市については、導入に向けて調整を進めている段階であるため、現時点で記載できないと考える。

委員

学校が核になる点で言えば、別府西小はできているのではないかと考える。開かれた学校ということで、モノ・情報を発信・受信していくということについても、地域の方と連携して行えている。総合的な学習や授業、クラブ活動、パワータイムの囲碁教室、チャレンジクラブなど地域の人が入って活動いただいている。防犯の点については、子ども一人当たり月 350 円を徴収して警備員を配置しており、不審者がいた場合は連絡がくるなど、校区内の防犯に対する意識は高い。また、子どもたちと一緒に登校される方もおられ、子どもや保護者ともコミュニケーションをとっておられる。ユニット内には教育懇話会という会もあり、地域で子どもたちを育てていこうという流れ中で、地域総がかりの教育というテーマについて別府町は進んでいると思う。

2 平成 31 年度社会教育委員会議について

(社会教育・スポーツ振興課地域家庭教育係長より説明)

意見なし

(報告事項)

1 兵庫県社会教育研究大会 (11/14) の参加報告について

(委員より報告)

2 東播磨・北播磨社会教育振興大会 (12/1) について

(委員より報告)

(その他)

委員

ボランティアポイント制度について、ボランティア活動にかかる材料が購入できたり、学校園にも寄付を行えたりすることができるという話を聞いて、とてもいい制度だと感じた。

委員

公民館活動の中で、小学校の子どもたちとふれあいのスポーツを行ったりする。ボランティアと子どもが顔見知りになり、通りすがりに声掛けができるようになると思う。こういった活動が開かれた地域の橋渡しになればと思うので、継続して取り組んでいきたい。

○ 閉会 15 時 30 分

副委員長あいさつ

以上